

## 三河国府跡確認調査(第7次)の概要

### 1. 調査の経緯

今回調査を行った白鳥遺跡は、三河国分寺跡の西南西約500mの白鳥台地上に広がる総面積約25haの遺跡であり、従来から三河国府跡の推定地とされてきました。この地名「白鳥」は『続日本紀』に記載されているように、白鳥を朝廷へ献上したことに由来するといわれ、西側には国府(こう)と呼ばれる地名も残っています。

この白鳥遺跡一帯は、上郷中、下郷中の字名に示されるように昔からの集落が広がり、社寺が点在しています。現在までのところ台地東側や総社の南側、白鳥神社の北側などにはまとまった畑地がありますが、名鉄本線国府駅に近く、交通の便の良いことから宅地化が徐々に進行しているため遺跡の保護についての対策を早急に講ずることが課題とされました。

そこで豊川市教育委員会では、三河国府跡確認調査委員会を組織し、平成3年度から発掘調査を行っています。

5年目をむかえる今年度は、昨年度に引き続き、総社境内地を中心とした総社地区に調査区を設定して調査にあたりました。

調査の方法は、細長い調査区(トレンチ)を計5箇所設けて、遺構・遺物の検出にあたりました。重要な遺構が確認された地点では、必要に応じて拡張を行い、その遺構の範囲、性格を追うことに努めました。これにつきましては、地主さんはじめ、総社、曹源寺関係者の方々には、ご協力いただき、大変感謝申し上げます。

各調査区ごとの概要をまとめてみると、以下のとおりです。

## 2. 各調査区ごとの概要

### (1) Eトレンチ (7ET)

総社拝殿前の広場に設定した調査区です。この地点は昨年のDトレンチ(5DT)で遺物の大量に出土した落ち込みの南側に設けたため、この続きが確認されました。昨年と同様に大量の瓦、須恵器・灰釉陶器などが出土しましたが、性格についてはよく分かっていません。その他には、古墳時代後期(7世紀)の竪穴住居跡が検出されています。

### (2) Fトレンチ (7FT)

総社境内地南側の林の中に設定した調査区です。昨年度のA・Bトレンチ(5AT・5BT)で確認された大溝の延長上にあたる地点です。このことから、大溝の検出が期待されました。調査の結果、予想どおりの位置から、昨年と同様の大溝が確認されています。これにより、大溝の総延長は117mにおよぶことが明らかとなりました。

### (3) Gトレンチ (7GT)

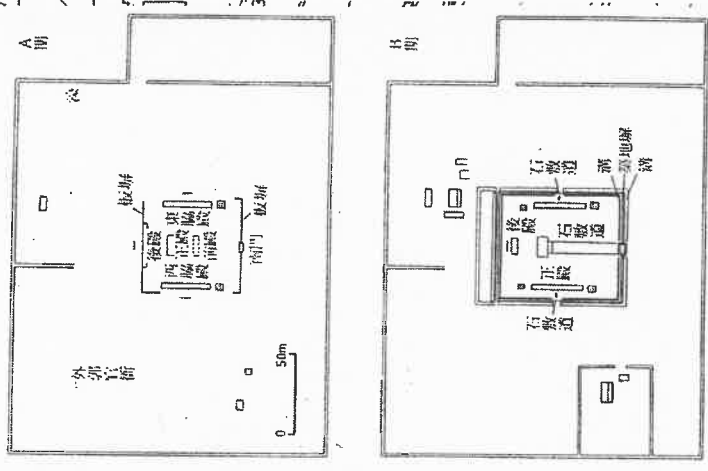
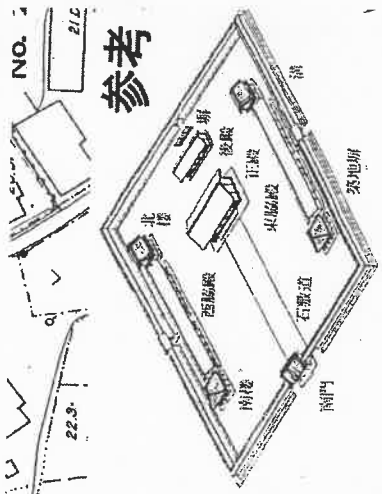
総社と曹源寺の中間の林の中に40mにわたって設定した調査区です。当初、この地点は建物跡の存在を期待していたのですが、調査の結果、建物に結びつく遺構の確認にはいたっていません。代わりに、遺物の大量に出土した落ち込みが検出され、蹄脚硯などの官衙関連の遺物が出土しています。このことから、国府に関係した遺構と推定されますが、性格についてはよく分かっていません。

### (4) Hトレンチ (7HT)

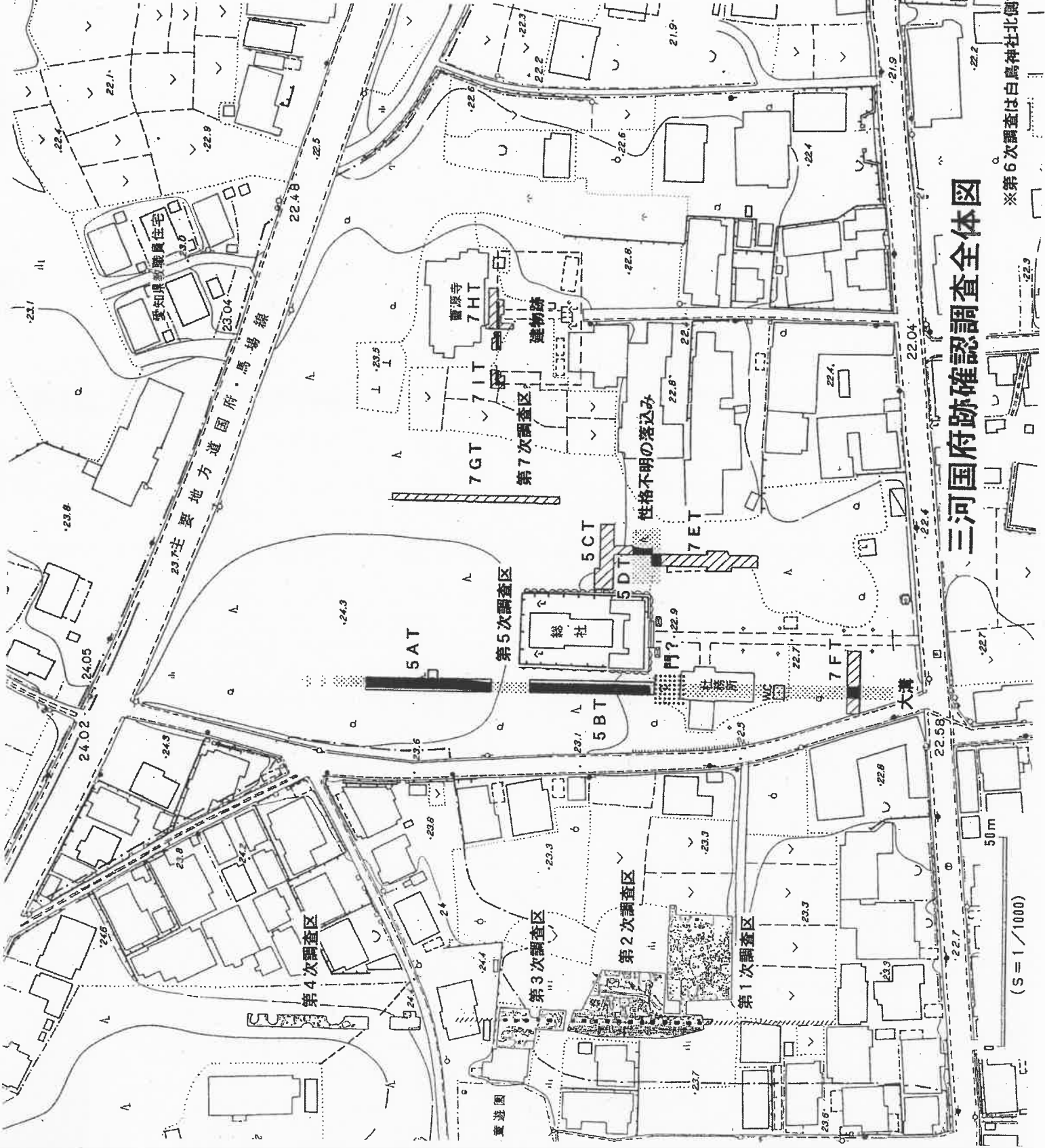
曹源寺本堂前に設定した調査区です。当初、この地点は、大溝の存在が期待された地点でしたが、調査の結果、大溝は確認されずに、建物跡が発見されました。この建物跡は、しっかりした石組の雨落溝を伴っていることから、礎石建ての瓦葺き建物になるものと推定されます。これは信濃国分寺跡金堂などに類例があり、当時としては格式の高い、立派な建物であったことがうかがわれます。

### (5) Iトレンチ (7IT)

Hトレンチで確認された雨落溝の延長を求めるために拡張して設けた調査区です。ここでは雨落溝が直角に南へ曲がり、北西コーナー部分が確認されています。ただし、建物の規模は今回の調査では分かっていません。



107 伊弉諾の遺物原状図 九世紀  
 伊弉諾の政庁がもつとも竊襲され  
 た頃の北山宮跡の建物のようす。正  
 殿・後殿・廊殿などの主要建物は、基  
 壇をもつ礎石建物となる。これら建物  
 の周囲は、東西八メートル、南北九  
 ミートルの範圍で、築地塙や溝で区  
 画される。正門である南門を入り北  
 に向ひる石敷の御道を進むと正殿の南  
 面に至る。東西両廊殿の南北兩端には、  
 後地蔵・東地蔵の建物が建ち、政庁建物の  
 位置にマゼットをつけている。

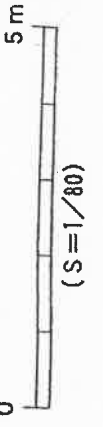
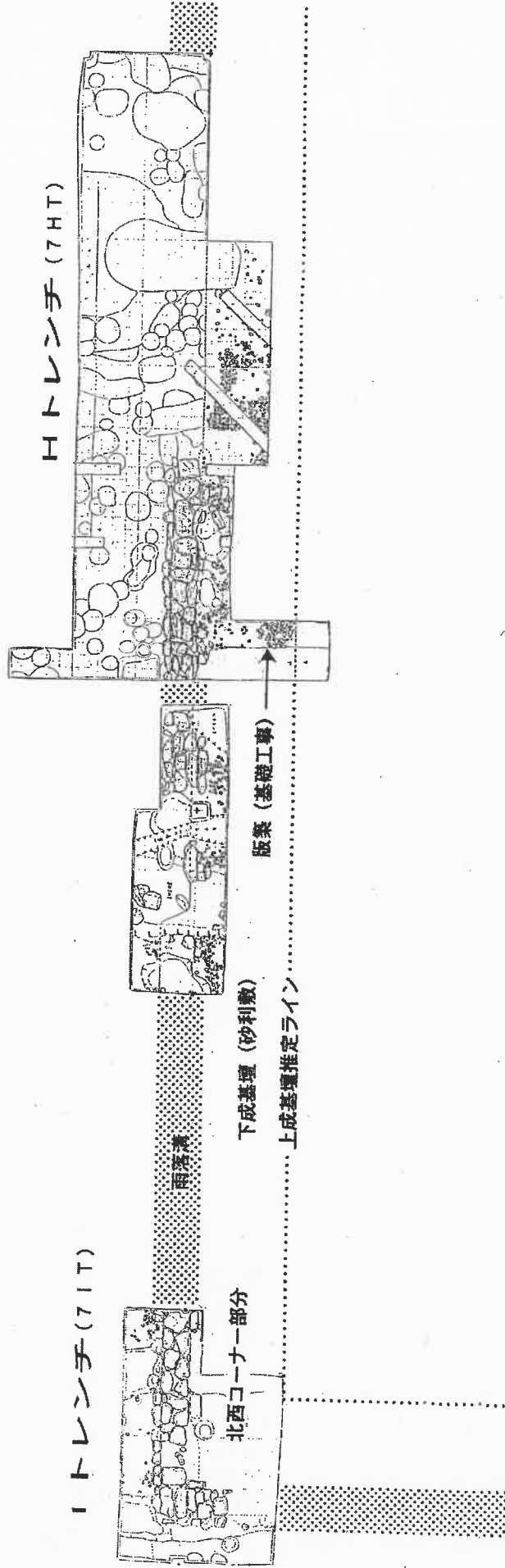


# 三河国府跡確認調査全体図

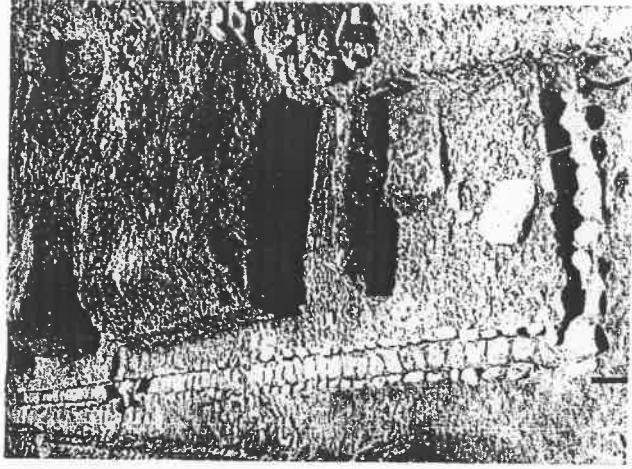
※第6次調査は白鳥神社北側で実施

(S=1/1000)

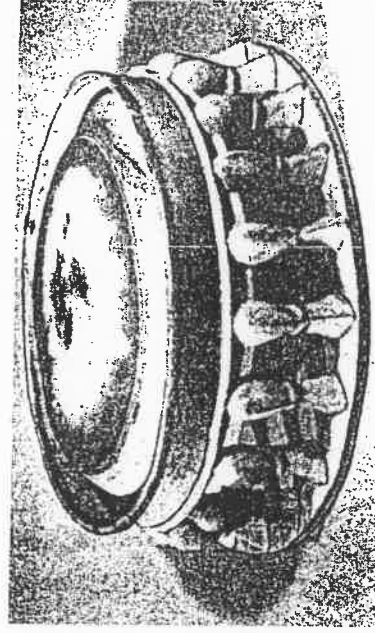
曹源寺



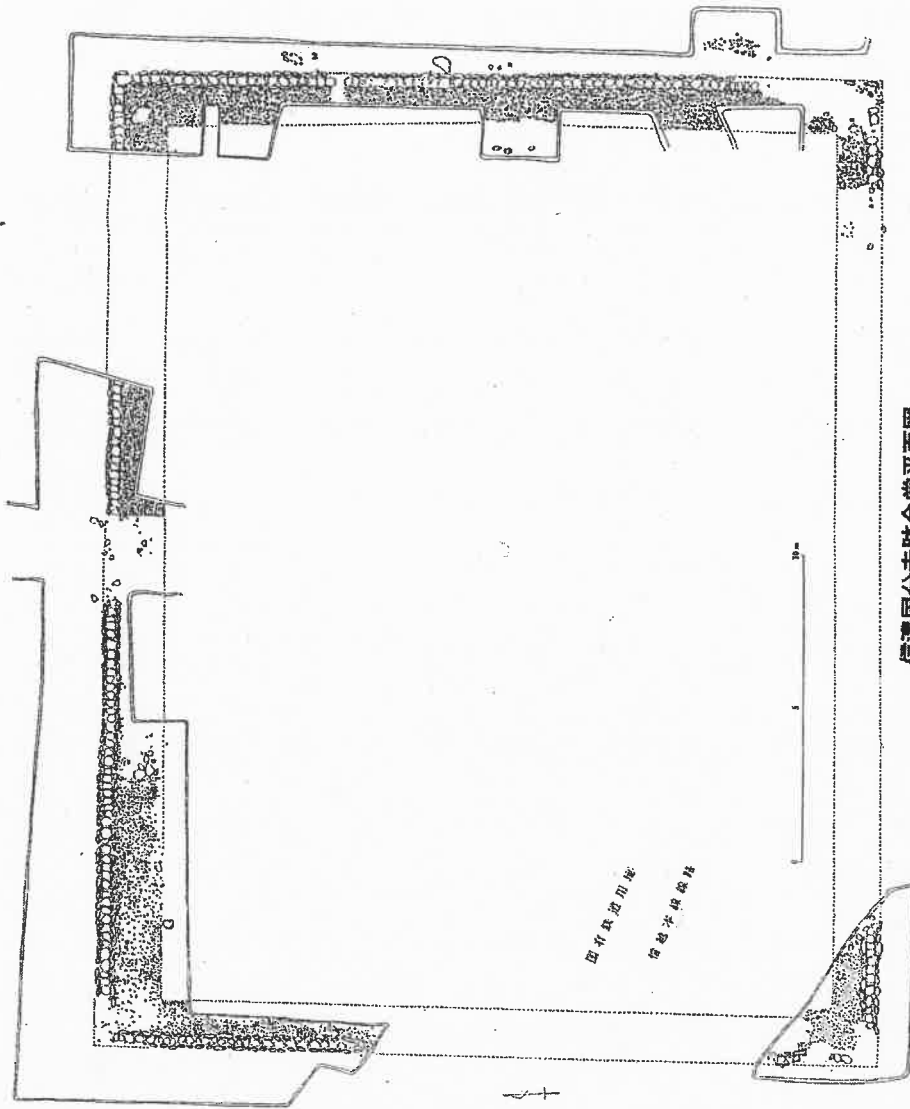
H・Iトレンチ平面図



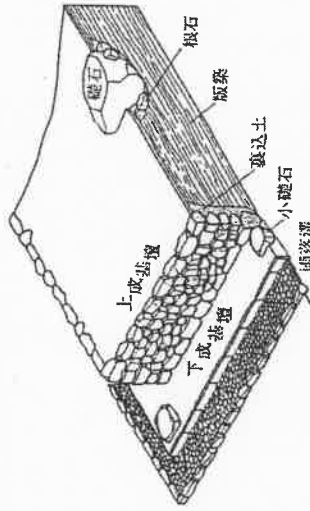
信濃国分寺跡雨落溝検出状況写真  
(今回確認された雨落溝と類似している)



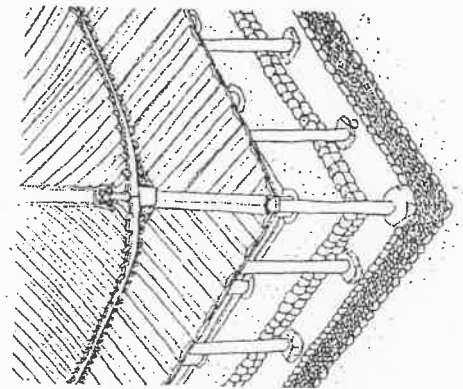
蹄脚限の類例  
今回出土したものに酷似してゐる。  
写真は中国の隋代のもの。



信濃国分寺跡金堂平面図



乱石積基壇  
古代の建物の多くは、土を叩きしめながら盛り上げ、その上に建物を建てる。その後でその土盛りを成形、その上面や側面に切石や川原石、瓦などを敷き、積み、たてならべる。これが基礎化粧である。



建物復元図